



「失敗は、悪かことじゃなか！」 ～NHK「舞いあがれ！」に学ぶ～

教務主任 小野 勝

8月29日に父が亡くなりました。働き者で、豪快で、背中大きな父でした。実家の隣に家を建てて住んでいる私は、残された母が寂しがらるだろうと、夕食だけでも一緒に食べることにしました。母と共通の話題になることはないかと探している私に、妻がすすめてくれたのは一緒にテレビドラマを見ることでした。ちょうど、NHKの連続テレビ小説「舞いあがれ！」の放送が始まるころでした。

主人公の少女「舞」は病弱ですぐに熱が出てしまいます。そんな娘が心配な母親は、何でも先回りしてやってあげたり、熱が出るからと言って、やりたいことも我慢させたりしていました。そんな舞が祖母と二人、離島で暮らし始めます。「この島では、自分のことは自分でやる。」と言って、何でもやらせる祖母。初めてのことに失敗ばかりの舞を祖母は温かく見守ります。そして、何をやってもうまくいかず落ち込む舞を、「失敗は、悪かことじゃなか！」と言って励ましました。舞はその言葉を信じ、失敗を恐れず挑戦し、成長してゆきます。

「失敗すること」＝「悪いこと」と思い込んでいた私にとって、教育観を変える衝撃の一言でした。「失敗させたらかわいそう」という思いから、先回りしてやってあげたり、口やかましく教えてあげたりしていたことが、実は子供たちの「失敗するチャンス」を奪っていたのかもしれない。今、子供たちに「**転ばぬ先の杖**」を渡してしまっは、大人になって転んでしまったとき、大けがにつながるのではないかと^{いしげえ}思いました。子供の頃の「失敗」は、実感をもなった「反省」へつながり、未来の「成功への礎」となることに気付きました。

では、どうすればよいのでしょうか？ 答えはドラマの中にもありました。祖母が、舞にしてあげたように、「上手に失敗させること」です。

- ①**子供の失敗を予想しながらも、温かく大きな心で「見守ること」。**
- ②**初めてのことに挑戦したことを「褒めること」。**
- ③**失敗したことを、次の成功へ結びつけられるように「励ますこと」。**

未来の日本を担う子供たちには、「失敗を恐れず新しいことに挑戦する気持ち」を大切にしたいと思います。そして私自身も、学校や家庭生活の中で、子供の失敗を見守って、褒めて、励まして「上手に失敗させられる大人」になりたいと思います。

子供のころ、失敗ばかりしていた私を温かく見守ってくれた亡き父に思いをはせながら、今晚も母と夕食を食べつつ、録画したドラマの展開に一喜一憂。傍らには笑顔の父の写真。父のような背中大きな大人になれるよう、明日からも頑張ろうと思います。

【11月の行事予定】

期日	予 定	期日	予 定
1 火	弁当の日	15 火	弁当の日
2 水	カスミ出前授業（3年）	16 水	SC来校 補充学習
4 金	なかいち祭り 学校評議員会	17 木	持久走大会（18日が予備日）
10 木	クラブ活動	29 火	授業参観（木曜日課5時間授業）